

第一章 医王山の自然

(一) 位置、地形、地質

中村 健二

1、位置と地形

医王山地は、富山・石川県境にまたがる、中起伏山地である。主峰の奥医王(標高九三九・二m)は、北緯三六度三〇分、東經一三六度四七分に位置する。この山稜は周辺の丘陵地から突出し、南側の尾根は浅野川と小矢部川谷にはさまれ、刀利ダムサイト上の横谷峠を挟間となし、砺波山の蟹谷で二上山と丘陵を分岐させる。北側に張り出した山稜は半ドーム状構造をなして、山稜の全体は北側に二〇度から三〇度で傾斜する。

望月勝海(一九三四)は、「小矢部川と浅野川との分水界の地貌を見ると、ブナオ峠方面より流れる河流が往古は約四〇〇mある現在分水線の最低所を越えて浅野川方面に流れ、その後、小矢部川に争奪されたと考えさせる。横谷村の南の分水界の峠は風隙(wind gap)であり、浅野川上流湯涌谷の不自然に大きな谷底の成因もかくして理解し得るであらう」と記載している。川原勝仁(一九三七)も望月説を引用し、「成程実地に観察するに、刀利村の北部に堅い岩石があつて、村人はこの堅石の侵食された深い峡谷を「のぞき」と名付けている。以前はこの堅石に塞き止められて横谷峠の gap の方へ流れたと考えられる」と述べている。

(注1) wind gap とは、かつての水隙が河川争奪による河系の変化により、現在、水流が見られなくなった地形のこと。

2、地質

約一千七百万年前ごろの日本列島は、二千万年前ごろにはじまった熾烈な火山活動の第一波につづく第二の激動期で、医王山地をつくる流紋岩や凝灰岩の厚い層が形成された時代である。

医王山の山体は、新第三紀中新世の流紋岩質の岩石から成る。新第三紀に関する近年の研究の進歩は著しく、化石等による微化石層序や、フィッシュントラック法またはカリウム・アルゴン法などの絶対年代測定、あるいは古地磁気層序など様々な手法が駆使されている。そして、ここ数十年の間に、わが国の新第三紀の地史の全体的な見直しがなされている。北陸の新第三紀や医王山地域の地質や地史についても、昭和初期以降多くの研究者によつて調査・討論がなされてきたが、近年、それが総括されるに至った。

(1) 医王山累層

医王山地域に分布する地層は、下位(古いもの)から順に、次のように分けられる。以下各層について、下位のものから順に解説する。

戸室火山噴出物			
卯辰山層	大桑層	高窪層	蔵原層
朝ヶ屋層	土山層	砂子坂層	医王山累層

中新世前期の流紋岩及び流紋岩質火

砕岩層からなる。流紋岩の溶岩をはさむ火砕岩は、緑色凝灰岩、凝灰角礫石、火山礫岩を主とし、凝灰質泥岩をはさみ、主体をなすものは淡緑色の凝灰角礫岩である。本累層上部では、角閃石

の長大な結晶をもつガラス質石英英安山岩が流紋岩と互層する。下部の溶岩は枕状構造を呈するものが多く、水底噴火の所産と推定される。模式地は鳶ヶ岩周辺で、一部には溶結凝灰岩をとまなう。

最下部の火砕流堆積物の下部付近に相当する凝灰質の中粒砂岩層を貫いて

多数のオパール脈があり、従来報告されてはいない多くの重晶石の産出を相良章生(一九八七)が確認した。本累層の最大層厚は約一、〇〇〇mであるが、東方の室牧川付近では急速に薄くなり、約二〇〇mと推定されている。

医王山の山頂付近に産するカルセドニー(玉髄)は微晶質石英の集合物からなるが、結晶から成る石英とは異なり研究が著しく困難なため、その成因や微細構造は解明されてはいなかった。医王山のカルセドニーに着目した諏訪洋子(一九八九)は、高温X線粉末解析実験を試み、その産状の観察及び光学

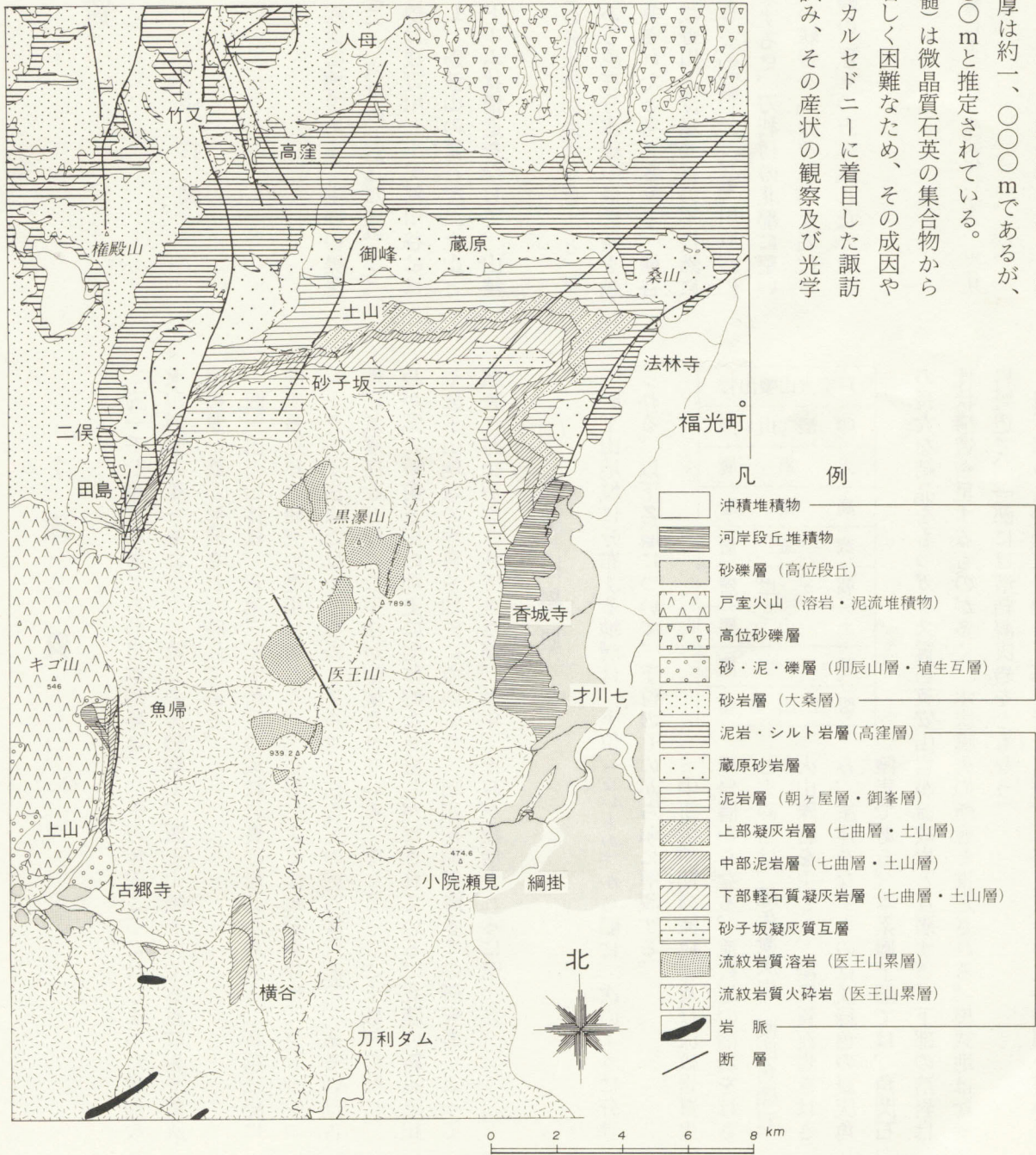
的性質、比重の測定、SEMによる定性分析、強熱減量の測定を行った。その結果、カルセドニーは流紋岩と流紋岩の周りに漸移して分布する真珠岩の中に結節状・脈状に産し、共生鉱物として自形の重晶石と方解石がカルセドニー中に成長していることを確かめた。

また、医王山産のカルセドニーはlength-fast tip(屈折率が小さく、したがって速度の大きい光の振動方向が結晶の伸びている方向と平行の場合)負の伸張方向を持つ性質をもっている。筆者は三十年前に瑪瑙の晶洞の染色を試みたことがある。鉄屑・砂糖・青果物汁またはその他の染料の中に数週間浸した標本を、藁・

籾殻または炭窯で加熱して、赤褐、緑、青等の着色実験を行なった。その結果、山梨県や北海道産瑪瑙

医王山周辺の地質図

5万分の1地質図「城端」(地質調査所、1964)により、一部「10万分の1 石川県地質図」(紬野、1977)を参照して作成



は染色に割合容易であつたが、医王山産は、玉髄のバンド内に染料が浸透しにくい性質があつた。

奥新保町の南西方向にある、「新保のヨーゼン」の採石地の露頭からは、飴色光沢の方解石が産出される。稀には、素晴らしい菱面体の結晶を見ることがあるが、普通、周りの岩石に取り囲まれた形の結晶を産出する。

これまで、白元山頂の東側や魚埴町周辺で、「算盤珠石」と呼ばれる紡錘形の玉髄を採集できたが、道路開削などで露頭が姿を消した結果、算盤珠石も見かけなくなった。

本累層には多種類の珪化木を産し、日本では絶滅種であるフウ (*Liquidambar formosana*) やサワグルミ (*Pterocarya rhoifolia* Sieb. et Zucc.) などの豊富な樹種が知られ、松尾秀邦 (一九六七) による「医王山植物群」の記載など数多くの報告がある。

場所は医王山の付近ではないが、鶴来地区のこの累層中から産したとみられる、淡水湖に生息していた魚 (オイカワ属) の化石が金沢の兼六園内成巽閣に保存されている。⁽⁷⁾

(2) 砂子坂凝灰質砂岩泥岩互層

医王山累層の上位に整合に重なる。主として暗灰色を呈する凝灰質砂岩および泥岩からなり、随所に凝灰岩・凝灰角礫岩を挟んでいる。大型有孔虫化石のオペキユリナ (*Operculina*) または、ウニ類の化石スカシカシパン (*Astrickypens*) の仲間や二枚貝などの化石を産出する。層厚は二〇〇m以下である。

(3) 土山凝灰岩層 (七曲凝灰岩層)

砂子坂互層分布域の北側に帯状に分布している地層を、富山県側では、土山凝灰岩層と呼び、石川県側では七曲凝灰岩層と呼んでいる。主に凝灰質砂岩・凝灰質泥岩・軽石質凝灰岩からなり、上中下の三層に分けられている。

この層では特記すべき化石はなく、最大層厚一〇〇mである。

(4) 朝ヶ屋泥岩層

本層は、主に均質で塊状の泥岩・シルト質泥岩からなる。暗灰色を呈するが、風化すると淡黄色を呈し軟弱となる。小型有孔虫、海綿骨針、珪藻類が見られ、朝ヶ屋泥岩層と大桑層との不整合面には、先端の太くなった細長いせん孔貝の生痕化石が見られる。最大層厚一五〇m。

(5) 蔵原砂岩層

福光町に模式地をもつ本層は、分級のわるい中々粗粒の砂岩からなり、軽石粒を多量に含んでいる。貝類化石を多産する。本層の二俣町地内から出土したカルカロクレス・メガロドンのサメの歯の化石は巨大なもので、同地内からは大小数個が採取された。サメの歯の化石は、福光町蔵原地内でも採取された。層厚は一六〇〜六〇m。

(6) 高窪累層

本層の岩相は、砂岩をともなう砂質泥岩からなる。全般に大型化石は少ないが、珪藻化石及び海綿骨針などを含む。本層中には五層の凝灰層がはさまれている。⁽⁸⁾ 最大層厚約二〇〇m。

(7) 大桑累層

かつては、新第三紀鮮新世といわれた本層は、最近の研究では、百三万年から八十万年前の第四紀前期の地層であるといわれる。浅海成の均質な砂岩からなり、下部は青灰色で固結度はよく、保存のよい貝化石を多く含み、上部は黄褐色で固結度は弱い。医王山累層から高窪累層までの地層を不整合に覆っている。

金沢市下谷町の露頭では、大桑層が堆積した海の海岸線付近の記録が残さ

れており、当時の日本海の波浪が刻み込んだと思われる溝状の波食溝や甌穴が見られる。

これは、約百万年前、海が一番奥まで入り込んだ岩石海岸の岸辺を物語る。金沢大学理学部地学教室の大学院修士課程在学中の田中謙一が、幻の海岸線を求めて山野を調査した結果発見した⁽⁹⁾。大桑層の層厚は二五〇mで、本層から産出する貝類化石は約二〇〇種が知られている⁽¹⁰⁾。

一九九一年五月、小森谷トンネルの小矢部市側の採石現場から、クジラの肋骨部分とみられる骨の化石が出土した。大型動物化石の場合、まとまって産出されることがきわめて稀なために、採取された骨の一部分では、属・種の判別は非常に困難とされており、解剖学的所見が必要とされている。

小森谷産クジラの化石標本



じたと思われる火山泥流が広く分布して、小起伏の多い台地状をなしている。

(10) 医王山累層産のヤシの材化石

筆者は、ヤシの化石に魅せられ、余暇を利用しながら三十年近くにわたって、医王山累層の分布する山野や溪谷を彷徨していた。一九八九年春、金沢市犀川上流の駒埴町竹ン谷の谷添いから、ヤシの材化石を発見した⁽¹²⁾（中村・一九九〇）。

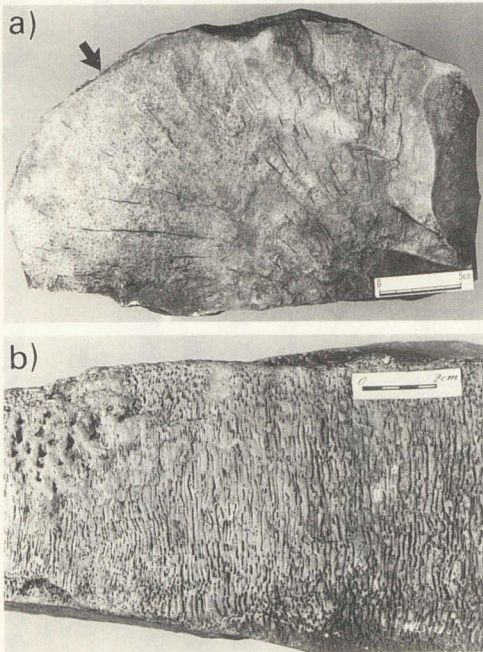
この地域一帯に分布する凝灰岩層は、前期中新世の医王山累層の上部にあたり、露頭は、軽石に富む中粒から粗粒の凝灰岩よりなっている。この化石は第三紀のヤシの材化石としては、日本で五例目の発見であると共に、露頭に於いて発見された唯一のものであり、産状が明確にされたわが国で最初のものである。東京大学所蔵の標準標本と比較の結果、*Palmoxylon maeadae* と同定された⁽¹³⁾（SUZUKI, 1989）。日本における第三紀のヤシ類の化石はきわめてまれで、金沢地域で報告された産状不明の三例の他に、福岡県の新第三系からの記載不十分な一例の報告があるのみである。

(8) 埴生層（卯辰山層）

県境に分布する第四紀更新世中期の地層で、砂・泥・礫層からなり、泥層からはマガキ・シジミガイ・チヨノハナガイ等の貝類を産出する。層厚約一五〇m。

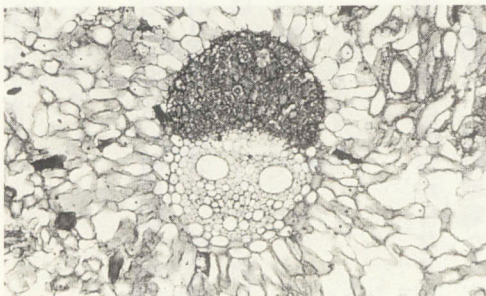
(9) 戸室火山噴出物

戸室火山噴出物は、五十万～四十万年前に噴出したもので、中部更新統の卯辰山累層をおおっている。戸室火山の火山岩の岩室は、斜方輝石角閃石安山岩であり、戸室石と呼ばれる青戸室石と赤戸室石とがある。戸室火山の西側には、溶岩ドーム形成後の水蒸気爆発によって生



第1図 化石の標本写真

- (a) ヤシの樹幹化石の木口面。黒点は縦走する維管束の断面。放射状に走る筋痕は横走する維管束。
(b) (a)の側面観。維管束が縦走している。



第2図 化石の顕微鏡写真（維管束）

参考文献

- 地質調査所(一九六四) 城端、五万分の一地質図幅及び説明書、工業技術院地質調査所
- 石川 県(一九七七) 石川県の自然環境、第一分冊地形・地質、付図十万分の一石川県地質図(紮野義夫編図)
- 富山県地学会編(一九八六) 富山県の地形・地質
- (1) 望月 勝海(一九三四) 砺波山丘陵及び蟹谷丘陵の地形、地理学評論日本地理学会編 古今書院、第十卷上八七三頁
- (2) 川原 勝仁(一九三七) 小矢部川上流の山間聚落の生活、福光小学校
- (3) 山下昇・紮野義夫・糸魚川淳二代表編集(一九八八) 日本の地質 中部地方Ⅱ、共立出版株式会社、一〇二～一〇七頁
- (4) 相良 章生(一九八七) 医王山北側に分布する上部新生界の層序と構造、金沢大学理学部地学科卒業論文、二七頁
- (5) 諏訪 洋子(一九八九) 医王山に産するカルセドニーの鉱物学研究、金沢大学理学部地学科卒業論文、三～四頁
- (6) 松尾秀邦・中西信弘(一九六七) 金沢市医王山北麓部の医王山累層並びに医王山植物群、早坂先生喜寿記念文集、二八七～二九九頁
- (7) 紮野 義夫(一九八九) 『日本海のおいたち』青木書店、一〇八頁
- (8) 富山 県(一九九二) 十万分の一富山県地質図および同説明書、五四頁
- (9) 紮野 義夫(一九七五) 『日本海の謎』築地書館、一二六頁
- (10) 松浦 信臣(一九九二) 『石川の化石』北国新聞社、七九頁
- (11) 田中 謙一(一九七六) 金沢周辺の大桑(鮮新統)基底の不整合について、地質学雑誌、七六(三)、一二三頁
- (12) 中村 健二(一九九〇) 金沢市の第三紀中新統医王山累層よりヤシの材化石の発見、金沢大学日本海域研究所報告、第二十二号、五五～六二頁
- (13) SUZUKI.M. (1989) A new record *Palaeoxylon* fossil wood from the Lower Miocene of Kanazawa. *Jour. Phylogr. & Taxon.* 37, 127-128.

(二) 動植物

堀 与 治

1、医王山の生物生存の環境的要因

(1) 気 象

(北陸電力医王山気象データ過去二年間より)

- ・気温は夏最高三一度 冬最低零下七・八度の範囲にある。
- ・積雪は最高積雪が四mに達するが、積雪期間は凡そ五ヶ月前後で融雪も早い。
- ・積雪時の地温は零度又は、それ以上である。
- ・風向は南から西の風が多く、稜線では風力が大で、最大風速一八・三m・瞬間三四・七mである。
- ・雨量は月量三九四mmに達することがある。(平成二年九月)

(2) 地 形

- ・標高約一〇〇mから九〇〇mの範囲で、標高差約八〇〇mの垂直的広がりである。
- ・地形は変化に富み、それぞれに適応する植生が見られる

2、生物から見た医王山の特徴

- ・地形が変化に富み適応する植物種が多様で約千四百種に及ぶ。
- ・植物が多様であり、それぞれ昆虫(幼虫)の食する植物に恵まれるため、昆

虫の種類も数も多い。

- ・植物種が豊富で秋の紅葉時は美しく、果実も多い。
- ・草木や実を食する動物も多い。
- ・渡り鳥の通路として知られ、昔は鳥かま(鳥羅場)がいくつもあった。
- ・清水が流れ、冷水に生育する魚も多い。

3、動物相

(1) 哺乳類

ホンシユウジネズミ・アブラコウモリ・トウホクノウサギ・ニホンリス・ニッコウムササビ・ニホンツキノワグマ・ホンドタヌキ・ホンドキツネ・ホンドテン・ホンドイタチ・ニホンアナグマ・ニホンカモシカ等六目九科十四種が確認されている。

(2) 鳥 類

ハシブトガラス・ハシボソガラス・カケス・スズメ・イカル・カワラヒワ
ホオジロ・メジロ・シジュウカラ・ヤマガラ・エナガ・サンコウチョウ・オ
オルリ・キビタキ・センダイムシクイ・ウグイス・ツグミ・ミソサザイ・カ
ワガラス・ヒヨドリ・キセキレイ・ツバメ・コゲラ・アオゲラ・ヨタカ・ホ
トトギス・ツツドリ・カクコウ・キジバト・ヤマドリ・サシバ・トビ・アオ
サギ・キジ・カイツブリ・カルガモ・コガモ・フクロウ・アカシヨウビン・
カワセミ・コマドリ・オオヨシキリ・モズ・シジュウカラ・ヤマガラ・コガ
ラ・セグロセキレイ・ヒバリ等約七〇種見ることができる。

(3) 爬虫類

両生類

アマガエル・トノサマガエル・ツチガエル・ヒキガエル・モリアオガエル・イモリ・ハコネサンショウウオ等

爬虫類

ニホンヤモリ・ニホントカゲ・ヤマカガシ・シマヘビ・アオダイショウ・カナヘビ・ニホンマムシ等県内山地で一般に見られるものである。

(4) 水生昆虫

カゲロウ目では約一四種 トンボ目では約一一種 カワゲラ目で五種 広翅目三種 毛翅目七種 双翅目三種確認されている。

(5) 魚類

スナヤツメ・イワナ・ウグイ・アブラハヤ・タカハヤ・カワヨシノボリ・カジカ・ニジマス等が生息する。

(以上、林梅夫調査資料)

(6) 昆虫類

医王山は急斜面を除き、コナラ・ミズナラ・雑木の二次林地帯で老木はほとんどない。そのため古木や樹液に集まる昆虫は少ないが、多様な植物種に附随する昆虫が多い。アカシジミ・ミズイロオナガシジミ・オオミドリシジミが確認されコナラ林が豊富なことを表わしている。

注目される昆虫

ギフチョウ(ヒメカンアオイ食)・ウスバシロチョウ(ムラサキケマン食)・モンキアゲハ(カラスサンショウ食)・オオムラサキ(日本の国蝶・エゾエノキ・エノキ食)。シタバ類では、シロシタバ・ムラサキシタバ・ジョナスキシタバ・ア

サマキシタバ・コシロシタバを確認。ガムシ・クロスジヘビトンボ・ヨコツナツチカメムシ・オオアワフキ(ナラ類・クヌギ食)

(7) 昆虫を一覧して

・直翅目 クルマバツタモドキ・ヒナバツタ・エンマコオロギ・オオカマキリ等六種

・積翅目 モンカワゲラ・オオカワトンボ・ミヤマカワトンボ・シオヤトンボ・アキアカネ・ノシメト
ンボ等九種

・半翅目 ヨコツナツチカメムシ・ツチカメムシ・アメンボ・ハルゼミ・ツクツクボウシ等十八種

・脈翅目 クロスジヘビトンボ
・長翅目 スカシシリアゲモドキ
・毛翅目 ヒゲナガカワトビゲラ等三種

・鱗翅目 オオムラサキ外二六四種
・鞘翅目 ニワハンミョウ外八四種
・双翅目 一〇種・膜翅目 一〇種
(以上、田中忠次調査資料)

4 植物相

(1) 南方系、北方系植物の混生する医王山

北方系植物

キンコウカ・バツコヤナギ・ヤマハンノキ・ヒメヤシヤブシ・ウダイカンバ・ツノハシバミ・ブナ・ミズナラ・イヌエシジュ・リョウハクトリカブト・



オオムラサキ (日本の国蝶)
鱗粉転写標本より

アカメイタヤ・アワブキ・ウラジロヨウラク・エゾリンドウ・ムラサキヤシ・オツツジ・サンカヨウ・カライトソウ・オオカメノキ・コバノトネリコ・ウリハダカエデ等約六十種

南方系植物

ソヨゴ・クロマツ・ヒノキ・ダンコウバイ・イヌザンショウ・アカメガシワ・ヤマトアオダモ・ケンポナシ・ナツツバキ・ヤマボウシ・ホンシヤクナゲ・ネジキ・ジロボウエンゴサク・タンナサワフタギ・ヒメカンアオイ・シライトソウ・トリガタハンショウヅル・セリバオウレン・キンラン・コチャルメルソウ・マルバフユイチゴ・ミヤマトウキ等約四十種

(2) 医王山に見られる日本海側の代表植物

雪による変化で生じた植物

エチゴキジムシロ・キタコブシ・マルバマンサク・オクモミジハグマ・コシノコバイモ等約二十種

形や性質が変化した植物

ユキグニミツバツジ・トキワイカリソウ・オオアキギリ・アズマシロガネソウ等約三十種
西日本を北上した植物

クルマバハグマ・アカミノイヌツゲ・ヒメカンアオイ・チョウジギク等約十種

雪の保温で残った植物

イワナシ・サンカヨウ等



ユキツバキ (群) 三倍体か調査中

(3) 群落や群集

・ブナ・チシマザサ群集
・ミズナラ・オオバクロモジ群集・ユキグニミツバツジ・コナラ群落
・ヤマツツジ・アカマツ群集
・センブリ群落

・ザゼンソウ群落
・ヒメアオキ・ウラジロガシ群集
・マルバマンサク・ミズナラ群集
・マルバマンサク群落等医王山には各種の群落・群集が見られる。

・その他タニウツギ・ヒメヤシャブシ・ミヤマカワラハンノキ等の群落やウキヤガラ・ヨシ・クサソテツ・モミジガサ群落も出現する。

(4) 四季の植物

春の開花植物 (県立公園保護指定植物を中心として)

アズマイチゲ・アズマシロガネソウ・イチリンソウ・トクワカソウ・イワナシ・エビネ・エンレイソウ・キクバオウレン・カタクリ・キクザキイチゲ・ギンラン・キンラン・クマガエソウ・コシノコバイモ・コチャルメルソウ・ザゼンソウ・サンカヨウ・ササユリ・シュンラン・シハイスミレ・ハルユキノシタ・ホンシヤクナゲ・ハルリンドウ・ヒトリシズカ・ヒメシャガ・フタ

リシズカ・

フモトスミ

レ・フデリ

ンドウ・ミ

ズバシヨ

ウ・スハマ

ソウ・ミツ

ガシワ・ヤ

マボウシ・

ユキグニミ

ツバツツ

ジ・フタバアオイ等がある。



シュンラン (春)



ホンシヤクナゲ (春)

夏の開花植物

オオイワカガミ・ウラジロヨウラク・ウチヨウラン・オニオオノアザミ・オオコメツツジ・オオハナワラビ・カキラン・カライトソウ・クガイソウ・コケイラン・コアジサイ・サルメンエビネ・シライトソウ・タマガワホトト

ギス・タイミンガサ・ツクバネソウ・シヨウキラン・ヤマホタルブクロ・マ
イズルソウ・マンネンズギ・ミヤマウズラ・ミヤマトウキ・ムラサキヤシオ
ツツジ・モウセンゴケ・ヤマシャクヤク・ヒメウツギ・ヤマボウシ・ヤマト
ユキザサ・ユキツバキ・コオニユリ等。

秋の開花植物

エゾリンドウ・オニシオガマ・キンコウカ・サワギキョウ・シオガマギク・
チョウジギク・センブリ・ダイモンジソウ・ツメレンゲ・リヨウハクトリカ
ブト・リンドウ・ソバナ・ギンリョウソウ等がある。

以上が保護指定植物の中から取り挙げたものであるが、他にも木本類で美
しく開花するものがある。

春は、タニウツギ・ユキツバキ・オオバキスミレ・ウワミズザクラ・タム
シバ・マルバマンサク等、夏は、ナツズイセン・ホオノキ・ケナシヤブデマ
リ・ナツツバキ・キバナイカリソウ・ネジバナ等、秋はラショウモンカズラ・
ヤマハギ・アキノキリンソウ・ミズヒキ等が美しい。

ほかに、コバノイシカグマというシダや、ツルガシワ等はめずらしい。

(5) 紅葉と実

・紅色となる葉には、ハウチワカエデ・ウリハダカエデ・ヌルデ・ヤマウル
シが特に美しく、黄色では、オオバクロモジ・タムシバ・イタヤカエデが
美しい。

・実では、カエデ・ムラサキシキブ・
ズミ・アオハダ・ガマズミ・マユミ・
ツリバナ・ナナカマド・ツクバネ・
コナラ・ミズナラ・ガマズミ・サル
トリイバラ・ヒヨドリジョウゴ・サ
ンショウ等が色や形から好まれる。
その他茶花や生け花の利用も多い。



オニシオガマ (秋)

(6) 食用植物と薬用植物

食用植物 (一) は地方名

アカザ・アサツキ・オオアキギリ(クワガラナ)・アケビ・イチリンソウ・
ウド・イラクサ(イラ)・ウワバミソウ(カタハ)・ハコベ(アサシラン)・ヤマ
ノイモ・オヤマボクチ(ウラジロ)・オオバギボウシ(ギビク)・オオヨモギ・
ヌマヨモギ・カタクリ・サワアザミ・クルミ・クサソテツ(クグミ)・サンショ
ウ・シオデ・スギナ・ゼンマイ・セリ・エゾタンポポ・チシマザサ・トチ・
トリアシショウマ(トラセ)・ドクダメ・ノビル・ノカンゾウ・フキ・ハハコ
グサ・ヤマボウシ・モミジガサ(キノシタ)・ヤマブドウ・ワサビ・クリ・ヨ
メナ・ワラビ等約二百種

薬用植物

アキノキリンソウ(利尿)・アオキ(創
傷)・アカメガシワ(健胃)・アケビ(利
尿)・アカザ(健胃)・アマドコロ(強壯)・
イボタノキ(いぼとり)・イカリソウ(強
壯)・イタドリ(利尿)・イヌザンショ
ウ(打ぼく)・イヌツゲ(利尿)・イチヤ
クソウ(切傷)・イノコヅチ(りん病)・
イラクサ(神経痛)・ウツボグサ(りん病)・
ウド(解熱)・オウレン(健胃)・オトギリソウ(神経痛)・オニグルミ(強壯)・
オオバコ(せき止)・カキドウシ(疳の妙薬)・カワラゲツメイ(健胃)・ガマ(止
血)・カナムグラ(利尿)・カキ(高血圧)・カラスザンヨウ(マラリヤ)・カタ
クリ(胃腸)・キンミズヒキ(下痢止)・キハダ(健胃)・キササゲ(腎炎)・ク
サギ(高血圧)・オオバクロモジ(胃腸)・クワ(高血圧)・クララ(健胃)・ク
マヤナギ(胆石)・サンショウ(健胃)・サラシナショウマ(解熱)・ジャノヒ
ゲ(強壯)・スイバ(利尿)・スギナ(かぶれ)・スペリヒユ(悪そう)・セリ(健



キクバオウレン

胃)・センブリ(健胃)・タンポポ(健胃)・ツリガネニンジン(去痰)・タラノキ(健胃)・ゲンノショウコ(胃腸)・ドクダミ(利尿・高血圧)・トチバナニンジン(ほうたん薬)・トリカブト(解熱・毒注意)・ネナシカズラ(強壯)・ノビル(胃腸)・ノブドウ(婦人病)・ハコベ(催乳)・ハハコグサ(胃腸)・フキ(健胃)・マタタビ(体を温める)・ミツガシワ(健胃)・ヨモギ(止血)等約二百五十種

5 文化調査地と植物

惣堂周辺の植物

この一帯はコナラ群落が中心で、寺跡とされる平地をはじめ周辺の平坦地はほぼコナラが生育する。樹齢は四〜五十年で薪炭材として伐採された二次



センブリ

林で構成される。巨木といわれる古木は古宮屋敷のスギ以外は見当たらない。コナラ林に混生してアカマツが群生するが大木ではない。他に、リョウブ・アオハダ・オオバクロモジ・ユキグニミツバツツジ・ツクバネ・イヌツゲ・アズキナシ・ユキバタツバキ・ネジキ・マルバマンサク・ミズナラ・コシアブラ等が生育し、小川の周辺には、ウワバミソウ・オオアキギリ・ホクリクネコノメソウ・イラクサ・ミツバ・スミレサイシン・フキ・ヨモギ等が多く、食用植物となる草本類が多く見られる。茅葺に用いるススキ・カリヤスは、これより上部に多い。この周辺には食用キノコとなる、ニセアブラシメジ・サクラシメジも多い。これらの傾向は正権寺跡も同じである。

※石川県側に多い医王山植物(木村久吉調査資料)

オサシダ・アオハリガネワラビ・キンコウカ・タチコゴメグサ・オオバノトンボソウ・ムジナスゲ・ホソバノヨツバムグラ・マコモ・ミズオトギリ・ベニバナミヤマカタバミ・シノブカグマ・チャボガヤ・アズマハンショウツ

ル・キバナノイカリソウ・ウラジロイカリソウ・キンキエンゴサク・ツルアジサイ・エチゴキジムシロ・ツクシナナカマド・ナガバノモミジイチゴ・ミドリキンキマメザクラ・オクノフウリンウメモドキ・トウグミ・エチゴリソウ・コシジタビラコ・オオアキギリ・デワノタツナミソウ・サンインヒキオコシ・ハクサンカメバヒキオコシ・ミヤマベニシダ・オオバシヨリマ・ミヤマカラマツ・ミヤマハタザオ・エビガライチゴ・ヒメモチ・アカミノイヌツゲ・チドリノキ・タニタデ・オオカメノキ・ショウジョウスゲ・イワシヨウブ・アカモノ・コタヌキラン・ヤマアサクラザンショウ・ナツノハナワラビ・コバノイシカグマ・ヤマカブソテツ・ミヤマイチシダ・シケチシダ・オオヒメワラビ・ヒロハイヌワラビ・チャボガヤ・カツラ・アズマハンショウヅル・ルイヨウボタン・カライトソウ・コウモリカズラ・フタバアオイ・マルバコンロンソウ・オオバキスミレ・ミチヤナギ・タニソバ・ボントクタデ・トモエソウ・ワタゲカマツカ・コサビバナナカマド・ツルフジバカマ・アケボノソウ・エチゴリソウ・ヒメシロネ・レモンエゴマ・アキノタムラソウ・ナツノタムラソウ・シライトソウ・タマガワホトトギス・シュロソウ・コウライテンナンショウ・クモキリソウ・オオヤマサギソウ・キソチドリ・タテヤマズゲ・ヤマテキリスゲ・グリーンズゲ・カンガレイ・ウキヤガラ・ドクムギ・サヤマカグサ・ヤマミゾイチゴツナギ・ハイヌメリ・ミヤマアブラススキ等がある。石川県側は富山県側より広く、品種も多様で数も多い。

参考文献

- 薬用植物事典 村越三千男著 福村書店(一九五六)
富山県植物誌 太田 弘外二名著 広文堂(一九八三)
医王山の自然 福光町教育委員会(一九六五)